他事業所の工夫を見てみよう

満足度UP 利用者“増”の工夫

第５回

働く活動を作り、利用者を増やす工夫

働く活動をPRする工夫

働レク（ワクレク）を作り、PRすることで働きたいご利用者が増加

デイサービスたのし～む。十日市場（神奈川県横浜市）定員：10名
ブルーミングラボ小田原浜町（神奈川県小田原市）定員：20名

「デイサービスたのし～む。十日市場」と「ブルーミングラボ小田原浜町」では、『働レク（ワクレク）』という有償ボランティアなどを行うプログラムを2020年８月から提供しています。「私はまだデイサービスを利用するほどではない」と、利用に消極的な方などに「働く活動がある」とPRし、好評を得ています。働レクを目的に利用を開始された方も多く、「働くためにデイに通う」というご利用者が増えています。

「働レク（ワクレク）」の概要

「ご利用者の生きがい創出（誰かの役に立ち、対価が得られる）」「地元企業への地域貢献」を目的とした有償ボランティアなどの社会参加活動。働く（ワーク）×レクで「働レク」とネーミング。地元企業や協力企業から受注した依頼内容に基づき、ご利用者が作業を行う。登録者の約７割が参加。機能訓練の一環として行うため参加は任意で、得られた謝礼は月末に合算し、「働レク」への参加回数に応じてご利用者にすべて分配する。

【作業時間】
１～1.5時間／回

【平均謝礼】
１人当たり：200～1,000円／月程度

【受注例】
①箸の封入　②駄菓子の販売代理　③カプセルトイに入れる手紙の作成　④ハンドメイド商品の制作　など

働レク専用パンフレットを配布してケアマネに説明

働レクをケアマネに PR するために、働レク専用のパンフレットを作成し、まだご利用者を紹介されたことのないケアマネも訪問して渡しています。パンフレットには下記の内容をイラストや写真を中心に分かりやすく掲載しています。このパンフレットを作ったことでケアマネから「仕事をしたいという方がいる」と、体験利用の問い合わせが来るようになりました。

イラストと写真で分かりやすく記載した働レク専用パンフレット

パンフレットへの掲載内容

- 収益はすべてご利用者に還元
- 仕事は機能訓練の一環としてできる範囲で行うため、参加は任意でノルマはない
- 社会参加の証として対価が得られる
- 厚生労働省の通知※に基づき、行政とも相談しながら実施
- 作業内容（折る、貼る、詰めるなどの軽作業や、事業所店舗のスタッフとしての仕事、特技を生かしたクラフトなどの制作・販売など）
- 活動に参加しているご利用者・ご家族・ケアマネの声

※「若年性認知症の方を中心とした介護サービス事業所における地域での社会参加活動の実施について（平成30年７月27日）」

おまけ券付きチラシを新聞折込し、働レクを PR

地域の方に「働くプログラムを提供するデイサービスがある」ということを知ってもらうために、2020年12月に「駄菓子おまけ券付き事業所紹介チラシ」を作成して新聞折込で配布しました。来場者には入り口での検温、アルコール消毒、マスク着用、ご利用者との間をビニールシートで仕切るなどの感染症対策をした上で実施し、地域のお子さんやその保護者の方々を中心に多くの方が来場しました。ご利用者が実際に駄菓子コーナーでレジ対応する様子を地域の方に見てもらうことで働レクをPRし、介護相談にもつながりました。

駄菓子コーナーでレジを担当するご利用者。駄菓子は富山の薬売りのように、菓子卸業者から預かった駄菓子を販売。売上の５％が働レクの収益となる。

協力企業と共同で新サービスを開発し、ご利用者ができる仕事を増やす

ご利用者を増やすためには、働レクの仕事内容もご利用者の状態や好みに合わせられるように種類を増やす必要がありますが、協力してもらえる企業を見つけることが難しく、なかなか増やせずにいました。

そこで、駄菓子販売で関係のできた菓子卸業者に「ご利用者が好む折り紙や書字訓練などの機能訓練を生かせる仕事はないだろうか？」と相談し、共同で「じぃじ&ばぁばの便りガチャ」というサービスを開発しました。これは６人のじぃじとばぁばのキャラクターを設定し、孫に宛てた手紙をカプセルトイ（図１）で販売するというコンセプトの企画で、ご利用者は「孫を思い出すね」と楽しみながら取り組んでいます。

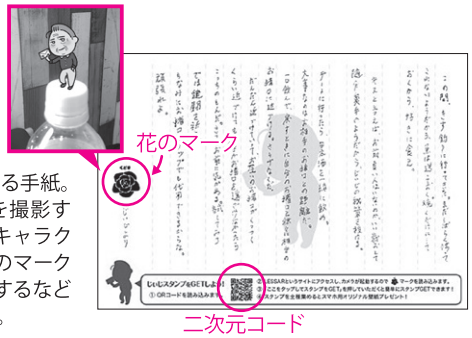
働レクに参加するご利用者の中には、認知症の方や全盲の方、手足に障害がある方もいますが、全盲の方は手で手紙の枚数を確認したり、手が不自由な方は目視で検品するなど、それぞれのできることを生かした参加方法を考えています。PR の際は「働レクは元気な方だけでなく、どなたでも参加できるプログラム」であることを伝えているため、ケアマネにも「紹介しやすい」と好評です。今後も仕事の種類を増やし、「生涯現役」というご利用者を増やしていく予定です。

「じぃじ&ばぁばの便りガチャ」の流れ

デイサービスは赤枠の作業を請け負い、トータルで１件として50円の報酬が菓子卸業者から支払われる。
注文は不定期だが、現在は月に10件程度受注している。

菓子卸業者からキャラクターに合わせた６パターンの文例がデイサービスに届く
→ ご利用者が文例に沿って、手書きの手紙を書く（原紙）
→ 原紙を菓子卸業者に送る
→ 菓子卸業者が手紙を印刷をする（図２）
→ 印刷された手紙（各パターン10枚、計60枚）がデイサービスに届き、ご利用者が折る
→ 折った手紙を菓子卸業者に送る
→ 菓子卸業者は検品し、設置店舗に納品する

（図１）
カプセルトイは居酒屋などに設置。手紙の文例はじぃじやばぁばから孫へのアドバイスで、設置店舗の販促につながる内容になっている。



（図２）
カプセルの中に入っている手紙。スマホで二次元コードを撮影するとじぃじ＆ばぁばのキャラクターを読み込めたり、花のマークを撮影するとARが起動するなどの仕掛けが施されている。

※通所サービス利用中の有償ボランティアの扱いは自治体によって異なるため、実施の際は各自治体にご相談ください。